

看護理論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
前期	2	必修	22.5

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護知識体系の構造とその意義を理解し、より科学的で良質な看護実践ができるようモデルや理論を活用できること、及びより臨床志向の実践的な理論構築の目を培うことをめざす。

【到達目標】

1. 看護知識体系の構造とその意義を説明できる。
2. 看護概念モデルを選択し、そのモデルについて概要を説明できる。
3. 選択した看護概念モデルまたは理論を事例に適用できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	看護知識の体系化とその意義，理論と理論の範囲	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
2.3	看護モデル・理論開発の系譜	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
4	主要な看護モデルと理論の特徴と適用 1. 生活統合体モデル概説とそれに基づく実践事例の発表と質疑	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
5	2. ヘンダーソン看護論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
6	3. オレム看護論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
7	4. ロジャーズ看護論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
8	5. ロイ看護適応モデル	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
9	6. ペプロー対人関係理論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
10	7. M. ニューマン健康理論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
11	2～8についても1と同様に各看護論の概説と事例適用について学生の選択学習による発表と，質疑・検討を行う	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
12	中範囲理論としての役割理論の概説と看護実践へのモデル適用事例の検討	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
13	小範囲理論としての看護診断モデルの検討	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
14	理論の研究への活用：調査票作成	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として成り立っています。それらを含めて看護理論を理解するためには、理論書を読むことが必要です。そのため、理論の概要を理解するだけでも、予習・復習を含めて1 講義につき2 週間程度の時間外学習は必要になります。

IV 教科書

『看護理論家の業績と理論評価』 筒井真優美編 医学書院 2015 [N01/Ts93]

V 参考図書

『看護理論家とその業績』 第3 版 A.M. トメイ& M.R. アリグット編著 都留伸子監訳 医学書院 2004 [N01/Ma52/3rd]

『フォーセット 看護理論の分析と評価』 新訂版 J. フォーセット著 太田喜久子 筒井真優美監訳 医学書院 2008 [N01/F16]

『看護における理論構築の方法』 L.O.Walker & K.C.Avant 著 中木高夫 川崎修一訳 医学書院 2008 [N01/W38]

『看護診断のためのよくわかる中範囲理論』 第2 版 黒田裕子監修 学研 2015 [N01/Ku72/2nd]

VI 評価方法

課題レポート (40%)、プレゼンテーション (20%)、グループワーク (20%)、課題の提出 (10%)、受講態度 (10%)

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

看護政策論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

国の保健医療福祉政策の動向をとらえ、医療看護サービスの質向上における政策の重要性、および看護職者が政策決定の過程に関わる意義を学ぶ。さらに具体的な看護の現状から看護政策の課題を探求し、看護政策に提言する能力を培う。

【到達目標】

1. 保健医療福祉政策の動向から政策が医療看護サービスの質に重要であることを理解する。
2. 看護に関連する政策過程を概観し看護職が政策決定過程に参画する意義を理解する。
3. 所属組織の現状から保健医療福祉制度や法律を踏まえ、看護政策の視点で課題を提示できる。
4. 提示した看護政策の課題を解決する方法を説明できる。
5. 提示した看護政策の課題について可能な範囲で提言できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的授業※
1	ガイダンス：(講義・演習の進め方等)	講義	山田 聡子	②③
2	看護をとりまく保健医療福祉政策の動向	講義	山田 聡子	②③
3	政策過程・政治過程	講義	山田 聡子	②③
4	看護職者と政策	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
5	看護に関連する政策と法律・制度①保健師助産師看護師法	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
6	看護に関連する政策と法律・制度②看護師等人材確保に関する法律	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
7	看護に関連する政策と法律・制度③診療報酬制度	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
8	看護に関連する政策と法律・制度④看護婦・士から看護師への名称変更	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
9	看護政策課題に関する発表と討議①	グループディスカッション	山田 聡子	②③
10	看護政策課題に関する発表と討議②	グループディスカッション	山田 聡子	②③
11	政策への参画：看護技術教育	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
12	政策への参画：看護の経済的評価	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
13	看護政策の課題解決方法に関する発表と討議①	グループディスカッション	山田 聡子	②③
14	看護政策の課題解決方法に関する発表と討議②	グループディスカッション	山田 聡子	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーショ

ンの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。受講後は、十分な時間を用い学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

IV 教科書

『看護職者のための政策過程入門』 見藤隆子 石田昌宏 大串正樹 北浦暁子 伊勢田暁子
日本看護協会出版会 [N60/Mi62]

V 参考図書

随時紹介する。

VI 評価方法

プレゼンテーション（40%）、討議参加状況（30%）課題レポート（30%）

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

看護教育原論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
前期	1	必修	1 2

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育に関する基礎的知識を修得し、看護基礎教育と卒後教育および継続教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育制度の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護基礎教育と卒後・継続教育の現状と課題について考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	看護教育に関する主要概念（看護教育と看護学教育、卒後教育と継続教育）	講義	山田 聡子	②
2	看護教育の歴史的変遷	講義	山田 聡子	②
3	看護教育制度の現状	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
4	看護教育関連法規 （憲法・教育基本法・学校教育法・大学設置基準・専修 学校設置基準）	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
5	諸外国における看護基礎教育・継続教育の現状	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
6	看護基礎教育における課題検討	グループディスカッション	山田 聡子	②③
7	看護卒後教育および継続教育における課題検討	グループディスカッション	山田 聡子	②③
8	まとめ	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

IV 教科書

『看護教育学』 杉森みどり 舟島なをみ 医学書院 [N80/Su38/5th]

V 参考図書

『看護教育学：看護を学ぶ自分と向き合う』 グレグ美鈴 池西悦子編 南江堂 [N80/G84]

『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』 D.M.Billings, J.A.Halsted 著

奥宮暁子 小林美子 佐々木順子監訳 医歯薬出版株式会社 [N80/B43]

VI 評価方法

課題レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)

VII 受講要件

なし

VIII その他
なし

看護教育方法論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	1	必修	1 2

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育課程および教育展開方法の基礎的知識を学修し、看護教育の方法を考察する。

【到達目標】

1. 看護教育課程および編成方法について理解できる。
2. 看護教育の方法および評価について理解し考察できる。
3. 継続教育の方法を理解し考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	教育方法に関する主要概念 (学習理論、レディネス、ペダゴジーとアンドラゴジー)	講義	山田 聡子	②
2	看護基礎教育課程と編成方法	講義	山田 聡子	②
3	看護教育の方法：講義・演習	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
4	看護教育の方法：臨地実習	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
5	看護教育の評価	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
6	継続教育の方法：新人・中堅看護師、看護管理者	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
7	継続教育の方法：看護教員、FD	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
8	まとめ	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

IV 教科書

『看護教育学』 杉森みどり、舟島なをみ 医学書院 [N80/Su38/5th]

V 参考図書

『看護教育学：看護を学ぶ自分と向き合う』 グレグ美鈴 池西悦子編 南江堂 [N80/G84]

『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』 D.M.Billings, J.A.Halsted 著
奥宮暁子 小林美子 佐々木順子監訳 医歯薬出版株式会社 [N80/B43]

VI 評価方法

課題レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

精神看護学教育論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
前期	2	必修	22.5

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神科看護で用いられる“癒しの技”は、個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい“目に見えない技”である。そのため、その“癒しの技”を教育する方法は、これまでには徒弟的な伝承に依るところが多かった。本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠である精神看護学教育の方法論について検討する。具体的には、認識論を基盤として、看護学基礎教育における実践例をもとに精神看護学の教育方法について論考する。

【到達目標】

1. 個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい精神科看護の“目に見えない技”を教育する方法論について検討することができる。
2. 認識過程におけるメタ認識について理解し、看護過程と教育過程の同型性を論考することができる。
3. 認識論を基盤として、看護学基礎教育及び継続教育における教育方法について実践例をもとに考察することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	授業ガイダンス 及び 精神看護学教育法における現状と課題	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
2	精神看護学教育の特性	講義 グループディスカッション	原田 真澄	②③
3	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
4	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	原田 真澄	②③
5	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
6	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	原田 真澄	②③
7	精神看護学における“癒しの技”と直観（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
8	精神看護学における“癒しの技”と直観（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	原田 真澄	②③
9	認識の進化と精神看護学（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
10	認識の進化と精神看護学（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
11	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
12	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
13	精神看護における認識過程（理論編）	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③

14	精神看護における認識過程（実践編）	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠である精神看護学教育の方法論について検討します。そのためには、教育過程の基盤となる認識論を学び、具体的な教育過程を検討することが必要になります。授業内容は広範囲でかつ深い内容ですので、十分な予習復習が必要になります。少なくとも1回の授業について、1週間程度の予習復習時間が必要です。

IV 教科書

『技を育む』 神田橋條治 中山書店 2011 [493.7/Ka51]

V 参考図書

『発生的認識論』 ジャン・ピアジェ 白水社 1972 [143/P58]

『Exploring the Interface between the Philosophy and Discipline of Holistic Nursing』

H. L. Erickson, editor Unicorns Unlimited, Createspace 2010 [N01.0/E67]

『精神医学的面接』 H. S. サリヴァン みすず書房 1986 [493.72/Su55]

『認識の生物学：理性の系統発生的基盤』 R. リードル 思索社 1990 [461/R38]

『暗黙知の次元』 マイケル・ポラニー 紀伊國屋書店 1980 [115/P75]

『援助技法としてのプロセスレコード』 宮本真巳編著 精神看護出版 2003 [N85.1/Mi77]

『科学的看護論』 薄井坦子 日本看護協会出版会 1997 [N04/U95/3rd]

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明（監訳） エルゼビア・ジャパン原文

『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby [N20/St9/10th]

VI 評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

VII 受講要件

特になし

VIII その他

特になし

看護倫理

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

小林 洋子、井篁 理江

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

今日の看護倫理の潮流から、その考え方や利点・欠点を理解する。その上で看護実践・研究・教育における今日の原則や概念を知る。さらに現場で遭遇する倫理的問題やジレンマ事例について検討することにより、問題またはジレンマ解決力や倫理的感觉を培う。

【到達目標】

1. 看護倫理に関する様々な考えとそれらの利点・欠点を説明できる。
2. 看護実践・研究・教育における倫理原則や概念を説明できる。
3. 看護実践に伴う論理的ジレンマ事例を検討方略を使って検討できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	現代の看護倫理：原則主義	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
2	現代の看護倫理：ナラティブ	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
3	現代の看護倫理：ケアリング、フェミニズム倫理学	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
4	倫理原則と看護倫理概念	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
5	専門職能団体と看護倫理綱領 1. ICN	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
6	専門職能団体と看護倫理綱領 2. 日本看護協会	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
7	看護実践の場によくみられる倫理的問題	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
8	看護実践の場における倫理的問題と検討方略	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
9	看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例の検討（閉鎖的な環境におかれた精神科事例）	講義 グループディスカッション	井篁 理江	②③
10	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：緩和医療の場合	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
11	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：DNR 指示	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
12	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：医療者のパートナーリズム	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
13	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：患者と家族の意見の違い	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
14	看護研究・教育における倫理	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
15	まとめ	グループディスカッション	小林 洋子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

授業参加の準備、復習、およびプレゼンテーションの準備を行い、理解を深める。

IV 教科書

『看護倫理学－看護実践における倫理的基盤－』 松木光子著 スーヴェルヒロカワ 2010
[N01.1/Ma78]

V 参考図書

『臨床倫理ベーシックレッスン』 石垣靖子、清水哲郎 日本看護協会出版会 2012 [N0.1.1/I73]

『看護実践の倫理 第3版 倫理的意思決定のためのガイド』 サラ.T. フライ著 片田範子 山本あ
い子訳 日本看護協会出版会 2010 [N01.1/F89/3rd]

『新版 看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理』 日本看護協会編 日本看護協会出版会
2006 [N62/N77]

『臨床倫理学 第5版』 Jonsen 他 赤林朗他訳 新興医学出版社 2006 [490.15/J72/5th]

『看護倫理のための意思決定10のステップ』 Thompson, J.E., Tohmson, H.O.

ケイコ・イマイ・キシ監訳 日本看護協会出版会 2004 [N01.1/Th6]

VI 評価方法

レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参加（10%）

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

コンサルテーション論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

村瀬 智子、大西 文子、向井 未年子、井篁 理江、木全 美智代、長尾 大地

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師の6つの機能の中の相談機能を果たすためのコンサルテーションの意義等の基本的概念と具体的方法について学ぶ。

【到達目標】

1. コンサルテーションの基本的概念について説明できる。
2. 臨床現場で起こる様々な問題や課題に対して、直接的あるいは間接的に問題解決を行うためのコンサルテーションの具体的方法を事例に適用できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	授業ガイダンス、コンサルテーション概論	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
2	様々な実践における困難事例とコンサルテーション状況	講義 グループディスカッション ロールプレイ	村瀬 智子	②③
3	コンサルテーション過程	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
4	コンサルテーションにおけるアセスメント：医療組織における支援とクライアントの状況	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
5	病者の認知行動的問題と援助者のコミュニケーション	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
6	看護者－クライアントの相互作用の分析：看護者が自身の異和感に気づくことと、アセスメント支援	講義 グループディスカッション ロールプレイ	村瀬 智子	②③
7	演習：面接と初期アセスメント：慢性期看護事例	講義 グループディスカッション	向井 未年子	②③
8	コンサルテーション演習：がん・終末期看護事例	講義 グループディスカッション	向井 未年子	②③
9	コンサルテーション演習：急性期事例	講義 グループディスカッション	長尾 大地	②③
10	コンサルテーション演習：急性期事例	講義 グループディスカッション	長尾 大地	②③
11	コンサルテーション演習：小児看護事例	講義 グループディスカッション	大西 文子	②③
12	コンサルテーション演習：母性看護事例	講義 グループディスカッション	木全 美智代	②③
13	コンサルテーション演習：精神看護事例	講義 グループディスカッション	井篁 理江	②③
14	コンサルテーション演習：精神看護事例	講義 グループディスカッション	井篁 理江	②③

15	まとめ	講義 グループディスカッション	村瀬・木全	②③
----	-----	--------------------	-------	----

※実践的な方法による授業： ②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前準備が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

IV 教科書

『プロセス・コンサルテーション－援助関係を築くこと－』 エドガー・H・シャイン 白桃書房
〔361.4/Sc2〕

V 参考図書

『Advanced Practice Nursing : An Integrative Approach』 5thed., A., B. Hamric et. al., Saunders/
Eisevier [N89/H26/5th]

『The Consulting Process in Action』 2nd. ed., Lippitt, R., & Lippitt, G., Jpssey-Bass/Pfeiffer
〔336/L67/2nd〕

『リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版 [N20/N98]

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編 日本看護協会出版会
2009 [N20/U92]

『専門看護師の思考と実践』 井部俊子他監修 医学書院 2015 [N89/Se71]

VI 評価方法

受講態度（参加・貢献度）（5%）、討論参加（50%）、プレゼンテーション（30%）、小論文（15%）

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし